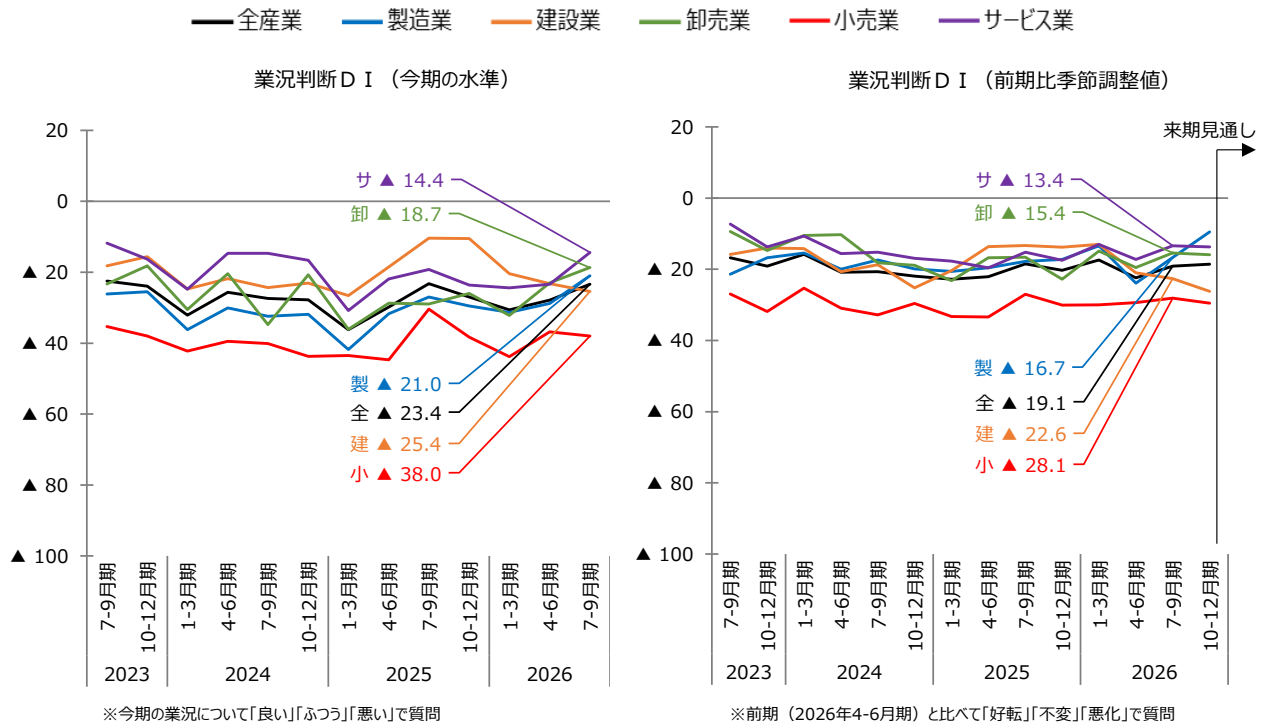


第185回 中小企業景況調査（2026年7-9月期） 東北

Be a Great Small
中小機構 中小企業の価値を、
日本の原動力に。

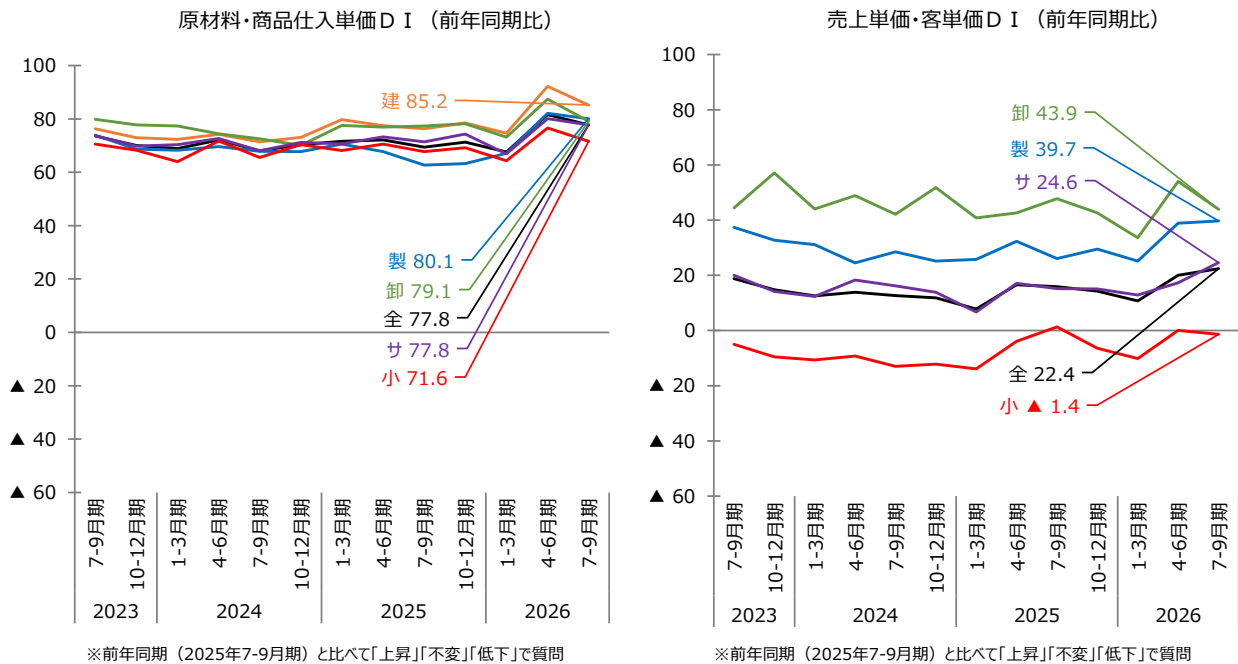
1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2026年4-6月期）より4.5ポイント増の▲23.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.8ポイント減の77.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.4ポイント増の22.4と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業で上昇し、卸売業、小売業で低下した。



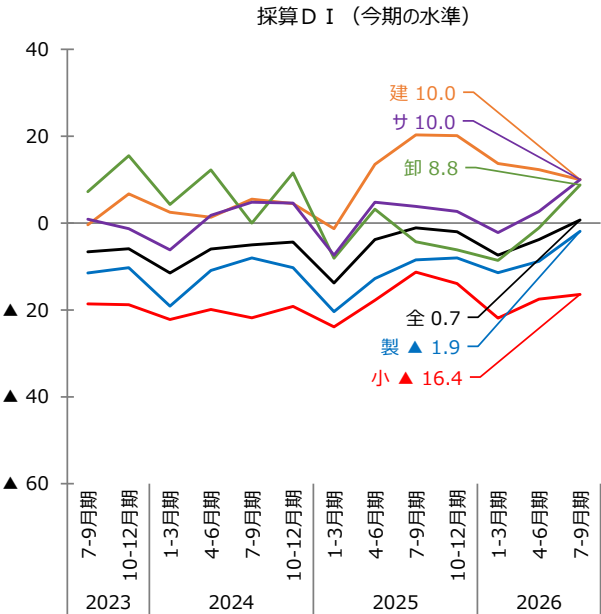
＜調査概要＞ 調査時点は2026年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,829 有効回答企業数：17,902 有効回答率：95.1% うち、東北：1,816企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

3. 採算

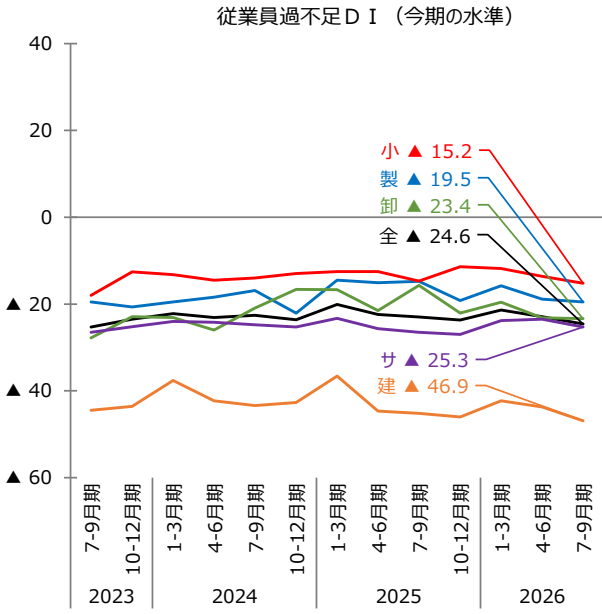
採算DIは、全産業で前期より4.5ポイント増の0.7と2期連続して上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、製造業、小売業で上昇し、建設業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.7ポイント減の▲24.6と2期連続して低下した。産業別にみると、すべての産業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

5. 東北の中小企業の声

業況判断の背景		業種	
現状	デジタル化の進展によるWeb通販への流入が今後増える中で、自社の新商品・新サービスの提供が出来ず、ズルズル売上が落ちる。一人営業の辛さを強く感じる。	製造業	オフセット印刷業（紙に対するもの）
	公共工事が増加したため、売上額が増加した。今後も民間工事と公共工事のバランスを見ながら受注していきたい。	建設業	一般電気工事業
	現在は半導体特需で活況だが、熊本地震、中東情勢、中国レアメタル輸出規制の影響で見通しがたたない。	卸売業	その他の産業機械器具卸売業
	照明器具LED化、エアコン2027年問題があるため、駆け込み需要の増加による売上UPとなっている。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	今季の状況は、前年同期と前期に比べても整備売上・車両売上ともに増加した。特に車両販売台数が順調に伸びているのが要因である。	サービス業	自動車一般整備業
見通し	今期は主要取引先以外の新規受注が増え、売上増加につながった。来期は繁忙期のため売上はさらに増える見込みだが、原材料費の高騰分を単価に反映できなければ、利益は減る可能性がある。	製造業	他に分類されない鉄鋼業
	中東情勢の影響により、工期が延期になっている。工期の長期化により、人件費や現場経費が増加し、大きな負担となっている。今後も資材不足が続けば、さらなる工期延長やコスト増加が懸念される。	建設業	鉄筋工事業
	中東情勢の影響で商品の確保が大変だった。今は仕入上昇、販売単価上昇で売上単価は上がるが、今後は低下すると思われる	卸売業	紙製品卸売業
	猛暑により季節家電の販売が好調で景況は良好。一方、不安点として補助金による需要の前倒しである点や、購入権が高齢者から子世代に移り量販店との価格比較によるキャンセルが増加していることが今後の不安点。	小売業	電気機械器具小売業（中古品を除く）
	もうすぐ開店9年目になるが、店舗・キッチンカー営業どちらも客が定着してきている実感がある。季節で変動するが、年間を通して変わらぬ業況とを感じる。仕入単価が少しでも下がるのを期待する。	サービス業	他に分類されない飲食店

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)